

Assembly2017 2nd 12 番テーブル 総評

文責：南（立教4） 若尾（法市4）

<全体の流れ>

Narrowing

Narrowing の OP 決めで、小澤の提示した B/D の同意なしで臓器提供をさせるというオピニオンシートにのっとして Discussion を進めることに決まった。

ASQ・NFC

ASQ では小澤のアイデアを理解するための Q がいくつか見られた後、NFC では、Objection が出されることもなく、NFC は立証された。

Solution

Praca では、2つの Objection を検証した。

1つ目は、橋本の今回の Mandate が執行されれば B/D の選択する権利が奪われることになってしまうという Objection である。成田と小澤と渡辺の質問が続き、橋本の Idea の大まかな内容をテーブルメンバーが理解し始め、成田が日本政府が権利を奪っていても T/Plan できる死刑執行の例を Exception として出したが、橋本は認めなかった。そして小澤のカンファメーションにより、橋本が Exception として認める条件をテーブルに落とした。その後、渡辺がそのケースに当てはまる Exception を見つけ、橋本も認めたが、橋本は権利が奪われているのは B/D だけではなく、その家族も含まれると Objection の定義を変更した。しかし、小澤の Q により、Praca との Linkage を証明する必要があることが明らかとなり、最終的に DA idea の一つとして出すという小澤の Suggestion が通り、話が収束した。

2つ目は、成田の今回の問題は Medical issue ではなく、Discussion することができないという Objection である。初めの Goal は Stop discussion であったが、検証始めるときに Spike Plan に Goal を変えた。しかし、小澤の Q により、Compari でも話すことができることが確認され、Spike Plan ではなく、Compari で話すことになった。そして Praca は立証された。

Worka では医者は患者を B/D として判断しなくなるという高橋の Objection を検証した。小澤のカンファメーションにより、高橋の Idea の検証手順が提示され、その手順によって話が進んでいった。そして、成田により医者の方の want to help patients と fear for court の気持ちを compari して、必ず fear が勝つということを証明しなければ、高橋の logic は立たないということが分かり、別のエリアで話すことになった。最終的に、渡辺、成田、橋本、小澤の積極的な Q によって、DA idea の一つとして出すことが決まり、話が収束した。そして、AD が立証され、DA 決めに進んだ。

DA

DA では渡辺、成田、橋本、高橋が DA プレゼンターとして立候補したが、橋本が提示した選択する権利が奪われている B/D の S/M が DA として選ばれた。

Comparison

compari では、小澤が AD>DA で、ADTG は consciousness があるが、DATG はない。つまり、AD は M/S が Clear だが、DA は Clear ではないという TG compari が提示されたが検証していこうとなった時点で時間が来てしまい、Discussion は終了した。

<選定理由>

1位 小澤（フェリス3）

オピニオンプレゼンターとして、常に議論を進める役割を果たしていたことを評価した。相手のアイデアを理解するための的確な Q や、話を終わらせるために必要な論点提示が出来ていた。ぜひエデュケに活かして欲しい。ここまで本当にお疲れ様でした！

2位 成田（上智3）

自分のアイデアの提示や、他者のアーギュメントを流そうと試みるものの、自分自身で話を終わらせきれなかったこともありこの順位となった。Exception やダウトの提示はできていたため、その意見を使って、論点に対してどう結論まで持って行くのか、自分自身で先まで提示して話を持っていけたら良かったと思う。

自分の経験を、後輩に還元してあげてください。お疲れ様でした！

3位 橋本（早稲田3）

自分のアイデアをテーブルに提示できていた点を評価した。自分のスタンスをぶらさず、話したいことを話すにはどうすべきか考えることが今後の課題である。また、テーブルの中での役割を見つけて、他者の話への効果的な入り方をみつけることでもっと上を目指せると思う。頑張ってください！

4位 渡辺（青学2）

ダウトがすぐ思いつき、提示していたがそのアイデアを使って話を終わらせたり、議論に影響を与えたりするところまで持っていくことが出来なかったことが惜しい。これからプレパを重ねていけばもっと伸びるタイプだと思うので、ぜひ頑張ってください！

5位 高橋萌（明学2）

自分のアイデアを提示は出来ていたが、他者の話への介入が少なかったところがもったいない。他者の話に介入することは結論を出す上で大切なことだと思うので、ぜひ鍛えて欲しい。頑張ってください！

6位 小澤（明治3）、新井（明治2）
介入がみられなかったため。